

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

北海道の 印刷

2011 **11**

第666号(平成23年11月)

発行/平成23年11月10日

北海道印刷工業組合

〒064-0808 札幌市中央区南8条西6丁目

TEL(011)562-6070

FAX(011)562-6072

URL: <http://www.print.or.jp>

E-mail: info@print.or.jp

印刷燦燦 ————— 3

第2回理事会 ————— 4~5

印刷物ご発注に関するお願い — 6~8

第14回日本自費出版文化賞 — 8

平成22年北海道工業統計速報 — 9

印刷産業経営羅新盤セミナー — 10

業界のうごき ————— 10

2012全日本印刷文化典北海道大会 9月20日(木)~22日(土)



秋の小樽運河

印刷燦燦

失樂園

理事 齋藤 義八

株式会社INSリンク代表取締役社長

いつの時代も天才と呼ばれる存在が世の中の流れを加速させてきた。

“現代のレオナルド・ダヴィンチ”

と、孫正義が賞賛したスティーブ・ジョブズが亡くなった。

56歳という若さであった。三つ子の魂百までの例えに漏れずとは言え、半分強しか生きなかった彼だが、13歳の時にヒューレット・パカード社のビル・ヒューレットの自宅の電話を調べ「周波数カウンタの部品を下さい」と言った日から亡くなる日まで、その独自の生き方は他者を巻き込み、世界も変えた。

今日我々のいる印刷業界も、IT界に、もう一人の巨人・ビルゲイツしか存在せず、アップル、そしてマッキントッシュが無かったらあと20年は旧態依然としたものだったかもしれない。そう、いっそのこと以前のままだったらどんなに良かったか。

DTP、デスクトップパブリッシング。今さらこの言葉の意味を噛みしめる。活版からオフセットへと変わった時よりも、ここ10年～15年で業界は激変したのではないか。われわれ専門者に依頼しなくとも、会社内・家庭内で印刷物ができてしまうこの現実。あるいは印刷物という媒体自体が不要なこの現実。

ジョブズが97年にアップルに復帰した時、それまで楽しく自由で民主的な社風で、好きな仕事しかやらずに済んできた社員たちは、最初は“伝説の創業者”を歓迎していたが、その熱狂はすぐに“暴君”ジョブズへの恐怖に変わった。

全員が会社との関係性を問われ、会社からの要求は跳ね上がった。樂園を追われたと感じた社員もいた。そして、ジョブズは60種あったパーソナルコンピュータのモデルをわずか3種に絞り込んだという。

選択と集中の結果、彼はipod、iphone、ipadと新しい価値を創造する指揮を執り、その過程で宿敵と目された「もう一人の巨人」ゲイツとも握手し、マイクロソフトと互換性を持たせた。

アップルのシンボルマークである林檎の意味はと、ジョブズ、ウォズニアック（もう一人の創業者）に尋ねても「明確な意味は無い」との答えしか返ってこなかったらしい。しかし私にはどうしても、アダムとエバが口に失樂園を追われたとされる「禁断の実」の暗喩ではないのかと思えてしまう。「DTP」という林檎を口に、樂園を追われた我々はどこへ行くのだろうか？

「どれだけ良いアイデアを殺せるかが勝負だ」ジョブズは新規プロジェクト開発にあたっての心構えをこう語ったというが…。

殺すだけの良いアイデアがあふれ出て来ない（天才では無い）我々の勝負はなんでしょう？ それは皆さん自らに問うて、そろそろ答えを出される時機ですぞ。

2012全日本印刷文化典北海道大会の準備 実行委員会設置

平成23年度第2回理事会開催

平成23年度第2回理事会が、10月7日午後1時30分から札幌市中央区のかでる2.7で全道から理事16人と監事2人が出席して開催され、下期事業スケジュール、印刷資材値上げに対するユーザーへのお願い状、2012全日本印刷文化典北海道大会の運営体制などを決定した。

理事会は、岡部理事長のあいさつの後、定数報告が行われ、理事長を議長に議事に入った。

最初に、報告事項として、(1)事業実施状況について、北印工組の事業、全印工連の事業、関係団体の事業に大別して、本年度の活動状況が報告された。

(2)第29回北海道情報・印刷文化典オホーツク大会ならびに組合設立70周年記念事業について、開催結果と70周年記念表彰者が報告された後、松井オホーツク支部長から、「8月に網走で行われた文化典は皆様のお蔭をもって無事終了することができた。7ヵ月前に起きた東北の東日本大震災で文化典が開けるかどうかを支部内でも相当の議論をしたが、何とか無事開催することができた。網走から組合員以外に市長、商工会議所会頭、金融機関・議会関係者など何人か出ていただいたが非常にすばらしいとお褒めの言葉をいただいた。各業界の全道大会は網走で殆どやったことがないと思うし、北海道印刷工業組合がこんなに組織がしっかりしてやっているんだということに驚きを持っていた。全印工連から水上会長が来られて、全日本まできちんと組織されている印刷業界に対して、お前達の団体はすごいと大変高い評価をいただいた。20名の小さな支部であるが大会を通して何

度も実行委員会を開いたお蔭で、支部がっちり固まった。これは本当に貴重な財産だと思う」とお礼のあいさつが述べられた。

次に、議事に移り、(1)平成23年度下期事業スケジュールについて、組織の拡大。広報活動の強化、明日に向かって「魅力ある業界づくり運動」の展開、共済事業への加入促進、福利厚生事業の実施、組織・財政状況の検討、全日本印刷文化典北海道大会の開催準備の事業スケジュールが説明され決定された。

その中で、2020年の印刷業界の姿をデザインした産業成長戦略提言説明会を、ソリューションプロバイダーへの進化をテーマに3支部で開催する。

また、クロスメディア出版・電子書籍の研究について、岸経営革新・マーケティング委員長から「電子書籍に対して産・学・官で何かいろいろな勉強ができないかと考えている。あくまで電子書籍に対する技術的な話やテクニカルセミナーのような感じでなく、私達が生業としてきた紙というものが今後どうなっていくのかというようなことを皆で勉強しあえるようなものにしたい。アドビのソフトウェアを買えば電子書籍は簡単にできてしまうのでそういう勉強をするのでなく、もう少し広義な意味での勉強を

するための協議会を経営革新・マーケティング委員会できないか起案をした。官の方は北海道経済産業局、札幌市経済局に話をしたらお金はないので名前だけになるが協力をしたいということである。学の方になると市立大学、情報大学などは、電子書籍のコンテンツを教材として勉強している学校でもあるので是非学生を参加させたい。ハード・ソフトベンダーも是非協力をしたいというかたちになっているので何らかの動きをしたいと考えている」と説明された。

(2)印刷資材の値上げの対応については、インキメーカーの東日本大震災の工場被災による原料調達難による価格上昇、製紙メーカーの原燃料価格高騰を理由にインキならびに用紙が値上がりしていることから、お客様に窮状を訴え、理解を求めるとを決定した。

その対策として、①北海道印刷工業組合のホームページに「有益な印刷製品・サービス供給にご理解ください」というテーマのお願い文を掲載、②組合員各位がお客様にお願いをするための全印工連会長・北印工組理事長・企業代表の連名での「印刷物ご発注に関するお願い」の文章ならびに関係資料の配布、③北海道出納局長、各北海道総合振興局長、各北海道振興局長、道内各市町村長に「印刷物ご発注に関するお願い」を文章で行うことを決定した。

(3)2012全日本印刷印刷文化典北海道大会について、これまで準備委員会を設置し、日時の決定、会場の選定、主な行事について検討し理事会において決定してきたが、これからは本格的に準備を行うため実行委員会、委員会、運営事務局の設置を決定した。

実行委員会の委員には理事と監事が就く、委員会は組織・財務委員会（飯村俊幸委員長）、記念式典委員会（岸昌洋委員長）、記念懇親会



委員会（板倉清委員長）、記念講演会委員会（松井丈委員長）、記念事業委員会（大和繁樹委員長）の5委員会とし、全委員会・事業等の調整機関として運営事務局を設置し各委員会委員長と理事長、専務理事が就く。

(4)平成23年度第3回理事会、下期北海道地区印刷協議会、経営者研修会を、北海道印刷関連業協議会平成24年新年交礼会に併せて1月10日(火)に開催することとした。

(5)全印工連特別ライセンスプログラムについて、昨年度から実施しているものでAdobe CS5.5を組合員は特別価格で購入できる制度で、2年毎の募集としていたが、第1期の募集期間が短く参加できなかった組合員が多かったことから、昨年度参加した組合員が不利にならないようにして、本年度も募集を行うことになったので組合員に周知することとした。

また、今年から、日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会、日本グラフィックサービス工業会の組合員も事業利用料を負担することで参加ができるようになった。

(6)次期理事長推薦委員会を、理事長選出手順内規に基づいて設置することを決定した。

この後、支部活動状況の報告に移り、野津十勝支部長から、帯広市に対する印刷発注に関する要望について説明が行われた。

要望事項は、①印刷の請負契約における最低制限価格制度の導入と発注方法の見直し、②地元印刷関連業者への発注、③庁内印刷の印刷業者への発注の3点。

また、旭川での要望活動についても発表され、情報交換が行われた。

つづいて、オホーツク大会の運営方法、従業員表彰の方法、会議のあり方等について意見交換が行われた。

以上で平成23年度第2回理事会を終了した。

有益な印刷製品・サービス供給のためご理解ください。
「印刷物ご発注に関するお願い」
H P 掲載・全道治自体に要望・お願い文章作成

北海道印刷工業組合は、このたびの主要インキメーカーならびに主要製紙メーカー各社による一方的な印刷インキならびに印刷・情報用紙の値上げについて基本的に反対であるとして、全印工連、日印産連と連携して対応をしている。

インキメーカーの東日本大震災の工場等の被災による原料調達難による価格上昇、製紙メーカーの原燃料調達価格高騰を理由とする、一方的かつ10%以上の大幅な値上げはあまりにも唐突であり、到底容認できる状況ではないが、昨今の情勢を鑑みると値上げを完全に阻止することは残念ながら厳しい状況にある。

当組合では、このたびの印刷インキ、印刷用紙値上げは企業経営に大きな影響を及ぼすこと

が懸念されることから、北海道印刷工業組合のホームページにお客様へ窮状を訴えご理解いただくための文章を掲載するとともに、全印工連の協力のもと組合員各位がお客様にお願いするために利用できる「印刷物ご発注に関するお願い」文書と資料を同ホームページに組合員専用（ID・パスワードが必要）で用意をした。

また、北海道出納局長、9つの北海道総合振興局長、5つの北海道総合振興局長、179の道内市町村長に、同主旨の「印刷物ご発注に関するお願い」の要望を行った。

なお、当組合は、この印刷インキ、印刷用紙の値上げにはあくまでも反対の態度を貫いている。

(ホームページに掲載しているお願い文書)

有益な印刷製品・サービス供給のためご理解ください。

北海道印刷工業組合は、道内の印刷事業所200社で組織し、印刷を通して国民生活および文化の向上に日々努めています。

長引く景気低迷に加え東日本大震災等の影響を受け、道内の印刷需要が減少を続ける中、組合員企業はさまざまなコスト削減に取り組み、有益な印刷製品・サービス供給に努めています。

しかしながら、印刷の主材料であります用紙およびインキ等が、東日本大震災の工場被災等によ

る原料調達難からの価格上昇を理由にインキは既に6月から10～15%の値上げが実施され、用紙についても各種原燃料価格の高騰を理由に9月から順次10%以上の値上げが実施されています。

これら主材料の高騰は、経営を大きく圧迫し、もはや企業努力でのコスト吸収は限界に至っています。

お客様各位におかれましては、これらの諸事情をご賢察いただき、ご発注に際しましては格別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年10月

北海道印刷工業組合	理事長	岡部 康彦		
	旭川支部長	谷川 徹	小樽支部長	米澤 正喜
	オホーツク支部長	松井 丈	北空知支部長	吉田 正治
	札幌支部長	板倉 清	十勝支部長	野津 雅之
	苫小牧支部長	山田 新一	函館支部長	浜中 正治
	南空知支部長	朝山 竹博	室蘭支部長	辻 新八
	稚内支部長	杉川 毅		

(組合員用のお願い文章)

平成23年10月

(顧客名) 様

全日本印刷工業組合連合会
 会長 水上 光啓
 北海道印刷工業組合
 理事長 岡部 康彦
 △△印刷株式会社
 代表取締役社長 □□□□

印刷物ご発注に関するお願い

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私ども印刷業界におきましては、主要資材である印刷用紙およびインキ等が、東日本大震災の工場被災等による原料調達難からの価格上昇を理由にインキは既に本年6月から10～15%の値上げが実施され、印刷用紙についても各種原燃料価格の高騰を理由に本年9月から順次10%以上の値上げが実施されています。

このような情勢の中、印刷業界は一層のコストダウンにより対応を続けてまいりましたが、印刷用紙を中心とする諸資材の高騰が経営を大きく圧迫し、厳しい状況に直面しております。

印刷業界は更なる経営努力を続けて参りますが、お客様各位におかれましては、これら諸事情をご賢察いただき、ご発注に際しましては格別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

(自治体に要望した文章)

(北海道出納局長)
(各北海道総合振興局長)
(各北海道振興局長)
(各市長村長)

様

平成23年10月8日

全日本印刷工業組合連合会
会長 水上光啓
北海道印刷工業組合
理事長 岡部康彦
(公印省略)

印刷物ご発注に関するお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、印刷業界に対し格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、私ども印刷業界におきましては、主要資材であります印刷用紙およびインキ等が、東日本大震災の工場被災等による原材料調達難からの価格上昇を理由にインキは既に本年6月から10~15%の値上げが実施され、印刷用紙についても各種原燃料価格の高騰を理由に本年9月から順次10%以上の値上げが実施されています。

また、その他諸資材についても今後値上がり避けられない状況にあります。

このような情勢の中、私ども印刷業界では組合員一同、一層のコストダウンを図りながら、必死の経営努力を続けて参りましたが、これら諸資材の度重なる値上げは、経営基盤を根底から揺るがし、極めて厳しい状況に直面しております。

つきましては、印刷業界では、組合員一同、今後も有益な印刷製品・サービス供給のため更なる経営努力を続けて参りますが、貴機関におかれましては、何卒、これらの諸事情をご賢察いただき、印刷物発注際しましては、特段のご理解とご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

中西出版(株)・第14回日本自費出版文化賞 大賞受賞

「アイヌモシリ・北海道の民衆史—人権回復を目指した碑を訪ねる」

第14回日本自費出版文化賞(日本グラフィックサービス工業会主催、日本自費出版ネットワーク主管)において、中西出版株式会社(林下英二社長・札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号)発行の、「アイヌモシリ・北海道の民衆史—人権回復を目指した碑を訪ねる」(杉山四郎著、印刷は中西印刷株式会社)が、651点の応募作品の中から見事、栄えある大賞に輝いた。



平成22年北海道工業統計速報発表される

印刷・同関連業出荷額1,267億77百万円で対前年比3.2%減

平成22年の北海道工業統計（4人以上の事業所）の速報値が、このほど、北海道総合政策部地域行政局統計課から発表になった。

印刷・同関連業の出荷額は、1,267億77百万円で前年比3.2%減と落ち込んだ。

平成22年の北海道工業統計速報値では、北海道の製造業の全産業で、事業所数が5,872事業所で前年に比べ264事業所が減少（△4.3%）している。従業者数は168,822人で前年に比べ8,291人が減少（△4.7%）している。製造品出荷額は5兆8,521億円で前年に比べ6,496億円が増加（12.5%）している。

平成22年の印刷・同関連業は、事業所数は407事業所で前年に比べ14事業所が減少（△3.3%）している。従業者数は7,973人で前年に比べ189人減少（△2.3%）している。製造品出荷額は1,267億77百万円で前年に比べ42億9百万円減少（△3.2%）している。

北海道工業統計 (印刷・同関連業)

	事業所数		従業者数		製造品出荷額等	
	事業所	前年比(%)	人	前年比(%)	百万円	前年比(%)
平成22年	407	96.7	7,973	97.7	126,777	96.8
平成21年	421	88.8	8,162	88.3	130,986	89.4
平成20年	474	96.1	9,243	94.1	146,374	89.8
平成19年	493	91.8	9,827	98.4	162,878	98.3
平成18年	537	92.9	9,985	95.5	165,645	94.6
平成17年	578	96.6	10,449	97.6	175,062	104.6
平成16年	598	89.5	10,699	96.3	167,323	96.5
平成15年	634	104.4	11,110	97.9	173,286	99.5
平成14年	625		11,347		173,995	

印刷産業経営羅針盤セミナー開催

売上高経常利益率5%への道

印刷産業経営羅針盤セミナーが10月7日午後3時30分から札幌市中央区のかでる2.7で、講師に(株)タナベ経営印刷営業革新チーム東京本部部長代理の岡田泰範氏を招き、「売上高経常利益率5%への道」をテーマに40余人が参加して開催された。

岡田講師は、最初に「印刷産業経営羅針盤」の使い方を説明し、先ず20項目の問診表により自社の症例の見極めることから始めるとした。

その上で、印刷業が抱える4つの課題として、①同質化競争、②高分岐点体質、③借入金依存、④どんぶり勘定を指摘した。

そして、何を変えるべきかを知り、どこまでどんなやり方でやるか、重点行動を明確にし管理進捗を徹底するとして、現在の経営を総点検し、やるべきことの優先順位を明確化することとした。

この後、同質化競争に関わる事業戦略上の課題、高分岐点体質、借入金依存に関わるコスト構造上の課題、どんぶり勘定に関わるマネジメントの課題について詳しく解説した。

また、自社の強みを知る方法として、①お客



様に聞く、②歴史的な流れの中で押さえる、③たまたま上手くいった例外に注目するの3点を挙げ、各種の経営数値は比較して初めて意味があるとした。

業界のうごき

▶三塚印刷(株)が移転

三塚印刷株式会社(平野巡社長)は、このたび、移転した。

〔新住所〕

〒007-0835 札幌市東区北35条東9丁目3番20号
TEL 011-752-0118 FAX 721-5782

▶東洋インキ北海道(株)社長に近藤雅彦氏

東洋インキ北海道株式会社(札幌市西区西町南11丁目1番36号)は、このたび、御子柴武社長が東洋インキ株式会社へ転勤され、新しく代表取締役社長に近藤雅彦氏が就任した。

▶(株)コスモテック札幌営業所が札幌出張所となり移転

株式会社コスモテック札幌営業所(及川進所長)は、このたび、札幌出張所となり移転した。

北海道印刷関連業協議会 平成24年新年交礼会

北海道印刷関連業協議会の平成24年新年交礼会が下記により開催されます。

記

日時 平成24年1月10日(火)午後5時
会場 札幌グランドホテル
(札幌市中央区北1条西4丁目
電話011-261-3311)

会費 8,000円

〔新住所〕

〒062-0034 札幌市豊平区西岡4条7丁目1番
43号 906号
TEL・FAX 011-855-0377